

平成22年度 学校評価表

飯田風越高等学校

学校教育目標		総合評価						
重点目標 (中・長期的 目標)		総合評価						
今年度の 重点目標		成果と課題		A	B	C	改善策・向上策	
<p>質実効的な気質と自由闊達な精神を校風の基調とし、さらに豊かな教養と高い知性を養い健康な身体に鍛え、広い視野に立ち責任と協力を重んずる民主的かつ有為な社会の形成者を育成する。</p>		<p>学習指導や進路指導に力を入れる一方で、生徒指導の第一歩は身だしなみ指導からと考え、ここ数年間にわたり取り組んできた。こうした取り組みもあり、学校全体が落ち着いた学習や部活動に向かうことができた。また保護者や地域の方からも、プラスに評価していただく機会が増えている。この流れを定着させ、学校全体のレベルアップをはかるとともに、生徒一人ひとりが自律的に行動し、挑戦する姿勢を育てていくことが求められる。そして、その際の指導が押し付けにならないためにも、生徒の個性や能力を十分に理解するための努力を続けていくことが必要である。</p> <p>部活動では運動系・文化系を問わず多くの部が、県大会をはじめとする上位の大会に出場することができた。また生徒の人間の成長を促す方向で、指導がなされていた。</p> <p>今後は、学校がめざすものやその実現に向けての取り組みをより積極的に発信し、それに対する保護者や地域の声に応える中で、信頼関係をより深めていくことが大切になると思われる。</p>						
<p>*保護者・地域との連携を深め、信頼を得る学校づくりをおこなう。 *社会の形成者として必要な規範意識の涵養とマナーの向上を図る。 *生徒一人ひとりの個性・興味・関心・能力・適性に応じて、豊かな人間性を養い、社会を担う人材を育てる。</p>		<p>学習指導・生徒指導・進路指導・部活動などの各分野で、全教職員が尽力している。今後は、そうした活動がより大きな成果を生むにはどうしたらいいのかを考え、実践していくことが求められている。個人の取り組みや工夫を、お互いを知る機会を意識してつくる必要がある。</p>		A	B	C	<p>*教科・係・学年・クラブ等のより一層の連絡・連携を密にする。 *お互いの取り組みの理解や指導等の工夫を共有し生かすことができるように、適切な方法で公開する。 *信頼される学校作りのために、ウィジョン委員会としても進路希望を実現する教科指導面や学校理解、地域と接する活動等を各分掌に積極的に働きかけていく。</p>	
<p>*学習指導・進路指導および生徒指導の充実を図り、特に65分授業を生かすための教材研究や授業の工夫等、生徒の適性や個性・能力に応じた指導をきめ細かくおこない、進路希望を実現させる力を育てる。</p>		<p>65分授業を行う中で、小テストや話し合いの導入など、さまざまな工夫がなされた。推薦入試での合格者が多かったことも評価できる。今後は模試や入試本番での得点力を向上させるための教材研究や授業の工夫に加え、生徒が自律して活動できるように、学校全体で仕組んでいくことが求められる。</p>		1	8	0	<p>*65分授業や学習・進路・生徒指導がどのように進路実現に結びついたか、活動の自律性を高めたかについて、個々の生徒の特性等にも照らしながら総括し、普通科・国際教養科ともに進路希望の実現に活かすことができるものにする。 *模試や入試本番の得点力向上など進路実現に必要な教材や指導内容、方法等について研究・研修できるようにする。</p>	
<p>*生徒・教職員間の信頼関係を基本として、これまで以上に生徒の自律を涵養しつつ、豊かな人間性と社会の形成者として必要な資質を養う。</p>		<p>目標に向かって努力する生徒の姿は、大きな喜びである。そしてその姿がより多く見られるようにすることが、教職員の役割でもある。丁寧に粘り強く向き合って生徒との信頼関係を築きながら、そこに留まることなく、自律の涵養という高いレベルをめざして取り組むことが求められている。</p>		2	8	0	<p>*生徒に丁寧に粘り強く向き合い、信頼関係を築きながら、成熟に向けての指導にさらに努める。 *実社会に目を開き、視野を広げる機会を積極的に設け、行事や様々な活動の中で、集団を向上させるために役割を担い協働することの大切さを実感させ、自己効力感を高める指導にさらに努める。</p>	
領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	改善策・向上策
教育課程	教育課程	生徒と保護者と地域が要望する風越高校の特色を生かした教育課程を編成する。	今年度から実施している教育課程の評価・反省をし、地域の期待する風越高校の姿を実現するための教育課程の研究と改善ができたか。	選択科目の設定を変更した。これにより大学入試を目指す生徒と、それ以外の進路を目指す生徒とともに、より要望に合った形で選択できるようになった。本校では進路希望が多岐にわたるため、今後も実態をふまえて改善していくことが求められる。	3	6	0	<p>*多様な生徒の進路希望に応えながらも、本校が生徒・保護者さらには地域から期待されている進路結果が出せるよう、教科と教育課程委員会にて教育課程の調査と研究を続けていく。</p>
		24・25年度から実施される学習指導要領の研究と立案ができたか。	各教科の意見を聞き、基本方針を共有しながら、新教育課程案を作成することができた。国際教養科については、専門科の特性を生かしつつ、文系特進への転換をはかることになり、さらに検討を重ね、学校全体で理解を深めていく必要がある。	2	7	0	<p>*新指導要領の実施に向け、各教科で研究を重ね、地域・保護者・生徒の期待に応えられるカリキュラム作り・結びつける。 *教育課程委員会と当該教科で国際教養科のカリキュラムの検討を行い、新体制のサポートができるようにする。</p>	
教育活動	学習活動	基礎学力の充実をはかり、さらに高い学力の養成をめざす。	生徒の学習実態を把握し、各教科の学習指導に生かすことができたか。	生徒の実態をふまえて、進路実績を上げてゆくためにも授業アンケートを定期的に行い、それを参考に授業を改善していくことなどの取り組みが大切である。またそれらを積極的に行う環境を整えていく必要がある。	1	7	8	<p>*実力テストや模試の分析を各学年でおこない、学習指導に生かせるように取り組みを更に強化する。 *生徒の実態把握を続けることと、クラス担任と教科担任が協力して生徒の学習意欲を更に高め、更なる学力の向上を目指して学習指導を充実させる。</p>
		家庭学習の定着を図ることができたか。	アンケート調査の結果、昨年度に比べ家庭学習時間が伸びていた。一方で課題提出が滞っている生徒も多く、全体に定着しているとはいえないのが現状である。学年・教科の連携に加え、生徒が自律的に取り組む姿勢をつつていくことが求められている。	4	6	3	<p>*各教科や学年で連携して指導するとともに、総合的な学習の時間等を活用し、生徒一人ひとりが自分の将来や進路について考える中から積極的に学習に取り組む意識を育てる等、生徒の意識改革を迫る取り組みが求められる。 *入学当初のオリエンテーションにおいて、学習の進め方について指導する。</p>	
		65分授業の特性を生かすような授業展開が工夫できたか。	授業時間が長くなることで、学習姿勢が低下することが懸念されたが、そうした悪影響は小さなものであった。むしろ授業の導入を工夫したり、小テストや話し合いを取り入れるなど、さまざまな工夫がなされていた。	3	6	0	<p>*生徒に対して授業アンケート等を行い、更なる授業の改善に向け、工夫をしていきたい。</p>	
		適切な教材を有効に活用できたか。	大学入試と生徒の実態を見据えて、教材選択を行っている。受験勉強を進めるにあたり、生徒が数多くの参考書や問題集から適切な教材を選ぶ機会は少ないので、学校でサンプルを用意することも必要ではないかと思われる。	1	8	0	<p>*シラバスの充実を図るとともに、更なる教材の工夫を行う。</p>	
		よりよい授業が展開されるよう授業に向かう姿勢を喚起できたか。	講義形式の授業が多い中で、生徒が主体的に取り組めるように工夫する必要がある。また生徒の意欲・意識を高めるためには、学習面だけではなく、生活面・進路面等での指導も大切である。さまざまな視点から生徒をとらえることが求められる。	9	9	0	<p>*入学当初や、学習態勢づくり、学習強化週間を積極的に活用し、生徒の学習意欲を高め自ら学ぶ姿勢がもてるよう働きかけを続ける。</p>	
		一人ひとりの教員がよりよい授業実践をおこなうため研修に取り組むことができたか。	校務多忙のため、校外での研修に参加するのが難しいという声もある。そのため校内で互いに授業を参観しあう人も少なくない。校内での研修を充実させていくことが必要だと思われる。	1	7	1	<p>*校外での研修に積極的に参加する。 *生徒の実態・再来年度センター試験変更点・新教育課程・今後の指導についての職員研修を計画している。</p>	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	改善策・向上策	
進路指導	生徒一人ひとりの進路希望に対応した情報・資料の適宜にかんじた提供と指導を充実させる。		生徒・保護者の進路への願いに対応した進路計画を立て、指導を充実させることができたか。	各学年、年間計画にそって実施できた。本校生に求められることの一つに、「自ら計画し、進んで実践する」姿勢がある。進路に対する意識が弱い1・2年生の段階で、その姿勢を身につけることが求められる。	24%	76%	0%	*担任や進路指導係だけでなく、副担任や教科担当も協力し、学校全体で生徒に関わるようにしていきたい。	
			学校ホームページの進路室の項目を充実させる等、地域への情報発信も含めて、適宜に適った進路情報・資料の提供ができたか。	進路情報は生徒が自分で集めるのが基本だが、狭く、偏ってしまうこともあるので、進路便りで幅広く大学等を紹介し、刺激を与えたり、各学年に必要な情報をタイムリーに提供できるよう、掲示物の内容や進路便りの内容を検討する必要がある。	21%	63%	17%	*更に進路便りや学年通信の充実を図りたい。	
			進路説明会・講演会やキャンパス見学会の適切な設定ができたか。	計画的に行われ、効果もあったといえる。ここ数年で定着してきたが、このままでは硬直化することが懸念される。もっと積極的に大学の先生を招聘するなどの動きを入れる必要がある。	42%	50%	8%	*分野別の進路説明会には、業者任せでなく、進路・学年で分担しながら本校生徒にとって目標となるような大学を呼ぶ努力が今後も必要である。	
			進路係と各学年のいっそうの連携を図り、3年間を見通した指導にあたることができたか。	係職員を中心に連携がはかれていた。「3年間を見通した指導」に関しては、係・学年が意見交換をしてく中で、より一貫性のあるものにしていく必要がある。	13%	79%	8%	*3年間の進路計画をよりはつきりさせ、進路係と各学年の連携を更にとっていく。	
			研究会などにより、進路指導にかかわる情報について職員間で共有できたか。	学年の枠を超えて参加する姿も見られた。その数がさらに増加することや、データや指導の積み重ねを利用しやすいものにする事で、共有が厚みを増すと思われる。	8%	83%	8%	*進路引継ぎ会を充実させる等の工夫をし、進路指導についての情報を共有していく。 *データの積み重ねと共有化をしていきたい。	
	生徒一人ひとりの進路希望の実現をはかるための支援をおこなう。		定期考査・実力テスト・校外模試のデータ分析をおこない、学習指導に生かすことができたか。	データ分析と報告・提言はなされている。だがそれが授業に十分フィードバックされているとは言い難い。分析や提言を授業にどう生かしていくのか、具体的に検討する場所をつくる必要がある。	17%	71%	13%	*模試データを授業等に生かしたり、模試のケアをするなどの工夫していきたい。 *1年次から個人の結果を全職員が知り、全体で進路指導ができるようにしていく。	
			補習授業等を充実させ、成果が残せるよう工夫できたか。	年間を通じた補習体制が定着し、熱心に取り組む姿が見られる。だが後半になると参加者が減少する傾向が続いている。減少率が少しでも小さくなるように、工夫していく必要がある。	17%	83%	0%	*補習の実施時期を見直し、効果的に補習を実施していきたい。 *補習授業をより充実させ、模試の成績やセンター試験の得点アップにつなげていく。	
			自律的な生活態度を高める。	モラルや挨拶等マナーを向上させることができたか。	学校公開や式典などのあと、生徒がきちんと挨拶をしてくれて嬉しい、という声を多くいただいている。1年次からの指導をより充実させることで、向上をはかることが求められる。	17%	75%	8%	*各クラブ・各クラスで顧問・担任が挨拶・マナーの指導に努力している。 *始業式・終業式で挨拶・マナーについて、全生徒への指導・啓蒙活動を行う。
			校則等規範意識を高めることができたか。	身だしなみ検査やポスターの掲示など、生徒の意識を高めるための取り組みもあって、問題行動が減少した。さらに意識を高めるべく、努力することが求められる。	8%	83%	8%	*制服・身だしなみ指導を継続し、女子のスカート丈・男子学生服について徹底を促していく。 *制服の意味について、学校行事・プリント等で啓発活動を行う。	
			安全意識を高めることができたか。	情報を迅速に伝えることで、向上をはかっている。全体への指導を、生徒一人ひとりに浸透させるために、さらなる工夫が求められる。	30%	65%	4%	*校外巡視・通学路安全マップ作成等で、特に露出狂・声かけ被害の防止を図る。	
地域・家庭との連携をはかる。	地域・家庭との信頼関係を深めることができたか。	学校が以前より良くなっているという声を、数多くいただけるようになってきた。学校から積極的に発信することなどで、より信頼関係を深めることが必要である。	16%	84%	0%	*「生徒指導だより」(仮称)等を発行し、生徒・保護者に向けての発信をする。			
教育相談	教育相談体制の充実をはかる。	カウンセラー事業の活用は十分できたか。	生徒が抱える問題は多岐にわたっており、カウンセラー事業を十分に活用することで、生徒・保護者・教員が助けられている。	54%	46%	0%	*必要に応じて、いろいろな立場で活用していけるように進めていく。 *活用の結果を全体でわかるようにしていく。		
		新入生への速やかな対応や生徒・保護者の要望に、適切な対応をとることができたか。	4月中に学年を中心に対応し、スムーズにスタートすることができた。要望への対応にあたっては、学校全体で対応する姿勢が大切である。	42%	58%	0%	*今後も早い時期に全体で確認し、具体的な対応事例などについての職員研修を充実させる。		
		特別支援教育の態勢は機能したか。	速やかな対応を求められるケースにも、係・学年を中心に対応することができた。今後、数が増えていった場合にも、対応できるようにしたい。	63%	38%	0%	*ケースに応じた対応・支援方法についての共有を進める。		
生徒会	自主活動の活性化を図り、自主的・自立的態度を育てる。	生徒会活動・クラブ活動など、自主活動の支援を進めることができたか。	自主的な活動が見られ、また支援することができた。「継続」と「創造」のうちの、「創造」にあたる活動が充実するように、支援していく必要がある。文化祭についてはこれまでのあり方を見直し、本校生徒会がさらに地域に愛されるような文化祭を検討する必要がある。	19%	77%	4%	*新しい文化祭の形について、役員生徒と検討していく。		
		地域活動への生徒の参加をすすめる。	国際科・吹奏楽部・ダンス部などが人形劇フェスタなどを通じて、地域に貢献していた。また口蹄疫義援金などの独自の取り組みもみられた。またスニーカーキャンペーンにより、本校生が地域と一緒に他国の子どもたちを支援することができた。今後は役員を中心に、より積極的に外に出て、発信していく必要がある。	31%	65%	4%	*スニーカーキャンペーン終了にとめない、それに替わる活動について、同窓会男子部と連絡をとりながら検討している。		
		校内の環境整備や美化をすすめる。	部室や部室周辺を重点に、校内の環境整備や清掃美化をすすめることができたか。	53%	58%	4%	*クラブ指導係が中心となり、部室や部室周辺の整美を更に検討していく。		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題			改善策・向上策	
				A	B	C		
保健	生徒及び職員が健康で安全な学校生活を送ることができるように保健的補佐をする。	健康診断の結果をふまえ、生徒本人が集団の中の自己管理ができるように指導助言をする。	保健日よりなどを通じて実践できた。生徒が自主的に予防行為をとるようになるための工夫が、さらに求められる。	38%	54%	8%	*生徒保健委員会の活動を通して、全校生徒が健康への興味関心が高まるように、保健委員会活動の内容を考える。	
			本年度は、生徒及び職員対象の応急手当講習会を3回に亘って計画し、多くの生徒・職員が受講できる機会を設ける。	機会を設けることができた。参加者数の増加が求められる。	46%	54%	0%	*引き続き応急手当講習会を受講するように職員の未受講者に呼びかける。 *生徒応急手当講習会の開催について検討する。
			昨年度の新型コロナウイルスの流行をふまえ、インフルエンザ等の発生時に対応できるマニュアルを作成する。	インフルエンザに加え、ノロウイルス対策マニュアルも作られた。	38%	63%	0%	*今後も検討し、より使いやすいものにまとめる。
	図書利用の向上をはかる。	図書館の資料の閲覧・調査・貸出がよりスムーズにできるように努めたか。また、利用に関しての情報発信に努めたか。	利用しやすいように工夫がなされ、図書館報でも利用が促進された。朝読書が実施され、生徒も積極的に利用していた。年間を通じ利用者数がさらに向上するような取り組みが求められる。	54%	46%	0%	*季節・行事等に合わせたコーナー作り、本の紹介を行い、生徒に興味を持ってもらえるような読書環境づくりに努めたい。 *今年度末に廊下に設置された掲示板等を活用して、情報発信に努めたい。	
			授業での利用の際、十分な資料提供ができたか。	生徒・職員の要望に、迅速に対応できていた。館内も季節に合わせて展示を工夫するなど、さまざまな取り組みがなされていた。	54%	46%	0%	*授業利用の際には早めに連絡をもらえるよう周知し、資料準備のための時間を確保できるようにしたい。 *近隣高校・公共図書館とも連携し、より充実した資料をそろえられるよう努力したい。
	視聴覚教育の充実を図る。	視聴覚機器の有効活用を図ることができたか。	授業での有効利用を実感できる方法の紹介など、一般職員がさらに積極的に機器を利用する工夫が求められる。	8%	77%	15%	*校内の視聴覚機器を把握し、活用させていきたい。	
			芸術鑑賞が、生徒たちの情操を豊かにするものであったか。	オーケストラのレベルも高く、大変よい機会となった。また聴くマナーを意識させることもできた。	46%	54%	0%	*下伊那地区として、質の高い芸術公演を維持継続させていきたい。
	人権平和	基本的な人権を尊重し、平和や真理を希求する人格の育成を目指す。	人権平和学習や研修旅行体験を通して、人権感覚を磨き、生徒同士お互いの気持ちを思いやれる人間関係を育むことができたか。また、戦争と平和について学び考えることができたか。(生徒対象)	講演は、生徒が意識を深める良い機会となった。研修旅行では、事前学習の時間が十分とはいえなかったが、現地での体験を通じて、意識を高めることができた。	20%	72%	8%	*人権平和学習の内容・方法について、さらに工夫・検討する。 *研修旅行の事前学習・事後指導について、学年と連携して指導できるようにする。
			研修旅行・LHR等で、平和や人権について学び考える環境作りが励むことができたか。また、日常の教育実践を通じて生徒の人権感覚を高めることができたか。(職員対象)	じっくり取り組むことには難しさがあるが、学校生活のさまざまな場面で、生徒に語りかける姿がみられた。人権教育強化期間のように、集中的に取り組むことも有効ではないかと思われる。	20%	72%	8%	*授業その他あらゆる教育活動において、平和・人権について考えさせる機会が高まるように、強化期間を設けるなど啓発活動に努める。
学校運営	保護者・地域との連携や交流に努め、よりいっそう開かれた信頼される学校づくりをすすめる。	PTA・学校評議員との連携強化を軸に、信頼関係を深め、生徒のより豊かな成長のための学校づくりに、それぞれの立場で協働できたか。	学校評議員会で、生徒会役員が委員の方々と意見交換をしたことは、委員の方々にも好評でたいへん良かった。一般の職員がPTAの方々と協力する取り組みを、より充実したものにしていけることが求められる。	48%	44%	4%	*「地域に根ざした広がりのある活動の展開」を基本方針に掲げる生徒会をサポートし、協働していく。 *PTA行事への積極的な参加を促し、保護者の思いを直接受け止められるように交流に努める。	
		本校の教育活動についての理解をより深めていただけるよう、学校公開・PTA諸活動を適切に実施できたか。	計画にそって実施できた。活動全般を通して、保護者の方々の参加率向上をめざし、工夫や取り組みを強化していく必要がある。	40%	60%	0%	*PTA行事に参加しやすいように方法等の改善と参加したくなるような内容や案内の工夫を行い、参加者を増やすように努める。	
		保護者の思いに共感し、寄せられた意見を学校づくりや、より良い授業作り、進路希望の実現などに生かすことができたか。	アンケートや地区懇談会を通じて、意見を集約できた。それを具体化していくために、関係部署からの提案や会議での検討機会を増やすなどして、職員の意識を高めていくことが求められる。	16%	84%	0%	*保護者や担任の思いを共有・確認できる学級懇談会等の積極的開催及び参加に努める。 *意見・要望をよく聞き取るとともに、関係部署からの提案や会議での検討をできるだけ速やかに行い、保護者に伝えられるように努める。	
	生徒・保護者・地域社会に適切な情報提供を行って、本校の教育活動を理解していただく。	PTA新聞やHP及び学年通信等を通じて、学校の様子がより分かるようにできたか。また必要な情報が確実に伝わるよう工夫できたか。	HPの更新は随時なされており、新しい情報を提供できた。また「風越高校だより」を毎月地域に届けている。一方で、PTA新聞等が家庭に届いていないという声が依然としてあるため、さらに工夫や努力が必要である。	32%	68%	0%	*学校や生徒の様子、学年や担任の思いなどが保護者に伝わるように日常的に努める。 *機会ある毎にPTA行事の案内予告に努める。 *電子通信・学校のHPへの投稿など双方向のスピーディーなやりとりの可能性を探る。	